広報 はちまんたい Hachimantai
Dec.2020 No.306

キラリ輝人（ひかりびと）89

縄文時代にタイムスリップ？竪穴住居で心豊かに

所有する山林を整備して竪穴住居6棟の「縄文の森」を完成

髙橋 憲一 さん

たかはし・けんいち　68歳　＝寄木新田＝

昭和27年生まれ。妻と子の３人暮らし。趣味は45歳で始めたスノーボード。年間100日はスキー場に通い、ボランティアガイド「APPI OYAJI」として外国人らに無料で滑りを指導。高校まで野球に打ち込み、左ピッチャーとして活躍。好きな言葉は「挑戦」。

「自然の中で、子どもたちが元気に遊ぶ姿を見るとうれしい」と笑みを浮かべるのは、所有する松尾寄木の山林に、縄文時代を感じさせる竪穴住居６棟を造った髙橋憲一さん。自然と触れ合える遊び場「縄文の森」を開放している。岩手山を望む小高い丘に建てられた住居は、最大で高さ・直径３メートルほど。内部は１メートル近く掘り下げられ、はせがけに使っていた木で骨組みを造り、屋根は苗箱やカーペットでこしらえ、樹皮で覆っている。

ペン画家の一面を持つ髙橋さんが縄文に興味を持ったのは、土偶の絵の作成依頼がきっかけ。頼まれて描いているうちに心引かれ、１年後の平成28年には一戸町の御所野縄文博物館で縄文土偶をテーマにした絵画展を開くまでに入れ込んでいた。

竪穴住居を造ろうと思ったのは、縄文土器と同じ野焼きで作陶に取り組んでいた山田町の故井筒禎治（ていじ）さんの一言。最後に会った29年11月の帰りがけに「竪穴住居を造って、そこに自分の作品を飾りたかった」とボソッと発した言葉が心にこびりついていた。亡くなった井筒さんの思いを継ぎ、翌年秋から住居造りを開始。本年６月に一通りの整備を終えた。

井筒さんから譲り受けた火焔（かえん）型土器を手にふたりの思い出を語る髙橋さん

子どもたちへは「ここで遊びながら、自然や歴史に興味を持ってほしい。縄文時代は私たちのルーツ。争いやストレスなんてなかった時代に学び、心豊かな生活を送ってほしい」と願いを込める。

「御所野遺跡（一戸町）」の世界遺産登録を応援。「市内にある釜石環状列石と長者屋敷には、貴重な遺産が眠っている。発掘して名所となり、一緒に盛り上がれたらうれしい」と夢見る。

■編集後記

▽各校、写真提供ありがとうございました。旅先が県内で懐かしく思いました。というのも私の学校も県内一周だったから。他校はベニーランドなのにと、うらやましく思っていましたが、思い返すと、行き先よりもバスやホテルでのくだらないやり取りしか浮かびません。結局は…ってお話です。（多）

▽広報係で西根一中の職場体験を受けました。体験に来た中村桜雅（おうが）君には、同級生が職場体験している様子の取材から記事作りまでをお願いすることに。取材先選び、写真撮影、インタビューなど、重いカメラを首から下げながら一生懸命取材する姿は、しっかり広報マンでした。（関連22ページ）（吾）

【広　告】

コミュニティバス「にしね眼科」バス停すぐ
薬のプロフェッショナルがあなたのご相談を承ります
漢方の あさひ薬局　西根中学校前店
公認スポーツファーマシスト
国際中医専門相談員
認定実務実習指導薬剤師
薬剤師　斎藤 貴将
八幡平市大更24-1-118（西根中学校前）TEL.0195-70-2311

※広報はちまんたい12月３日号（№306）の印刷経費は１部71.5円、発行部数は10,080部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載については、㈱総合広告社（☎019-626-3370）まで。

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C023138

令和２年12月３日発行
〒028-7397岩手県八幡平市野駄第21地割170番地
■ホームページ https://www.city.hachimantai.lg.jp
■発行　岩手県八幡平市　☎0195-74-2111　FAX0195-74-2102
■編集　企画財政課
■印刷　川口印刷工業株式会社